

令和元年度第2回久留米市スポーツ推進審議会議事録（要旨）

開催要領

1. 開催日時：令和元年10月30日（水曜日） 14時00分開会
2. 会場：久留米市荘島体育館 2階会議室
3. 出席者：委員14名
満園委員・堀委員・森崎委員・轟委員・中村（博）委員・馬場園委員・
岩城委員・中村（敏）・田中委員・佐藤委員・井手委員・高松委員・古賀委員・
宮原委員
：事務局4名
4. 欠席者：委員4名
新井委員・大友委員・中村（智）委員・松藤委員
5. 傍聴者：なし

議事次第

1. 会長あいさつ
2. 議事
 - （1）国のスポーツ基本計画にかかる地方公共団体の役割について
 - （2）市民意識調査からみる本市のスポーツを取り巻く現状について
 - （3）次期計画の骨子について
3. その他

配付資料

- 資料① 令和元年度久留米市スポーツ推進審議会次第
資料② 国のスポーツ基本計画にかかる地方公共団体の役割
資料③ 市民意識調査からみる本市のスポーツを取り巻く現状
資料④ スポーツ基本計画 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策体系

議事録

1. 会長あいさつ

今回は3点の議事がございます。皆様、よろしく申し上げます。

2. 議事（事務局より説明）

- (1) 国のスポーツ基本計画にかかる地方公共団体の役割について
- (2) 市民意識調査からみる本市のスポーツを取り巻く現状について
- (3) 次期計画の骨子について

<質疑>

- (1) 国のスポーツ基本計画にかかる地方公共団体の役割について

【委員】

「する」「みる」「ささえる」ということで、支える側の人間を久留米市としては醸成していかなければならない。久留米市として指導者、競技審判員の養成について関与がなさすぎる。各競技団体にどのような資格がいるか。どういった支援を求めているのか。というのを確認すべきだと思っている。

こどものうちから、外国人とのふれあいに抵抗がなくなればいいと思っている。

障害者スポーツ、女性のスポーツの推進において、状況の基本的な事の把握、また、その支援というところに重点を置いていただきたい。

【事務局】

「する」「みる」については政策的にも市の方も多くなっているが、指導者にかかる部分が手薄になっている状況はある。指導者の講習については各競技団体が自主的に講習等されているケースが多くある。

実際の事業としても具体化できるような形で、次回の審議会の際にご提案差し上げたいと思います。

【委員】

現状把握が一番大事だと思う。久留米大学が何をやっているかということも皆さん知らない。それがまずマズイと思う。

また、高校卒業後の行き場がなくスポーツを離れる。高校大学が連携していかなければならない。スポーツが楽しいかどうかは、やってみないとわからない。行政としても考えてほしい。プラットフォームだったり、フレームワークを作って、やってほしい。企業だったらプロジェクトとして人を抜いてきてやると思う。そこでうまくいけばそれを一つのセクションとして久留米市の目玉にしてしまえば面白いと思う。

【委員】

市で大きな野球全国大会を開催しているが、近くに宿泊施設がないのが困る。

【委員】

在籍している中学校の子供たちは久留米市出身の有名選手のことをとても誇りに思っているが、運動しない子供たちが運動するというわけではない。なかなか運動に親しんでこられなかった方々は自分で運動することがいいとわかっているけれど行けないし、情報を知らない。むしろそういう方々にこそ目を向けるべきだと思う。そうしないと、スポーツを通じて健康増進、共生社会は出来ないと思う。久留米市としてそういうふうにする条件を整備することが大事だと思う。

スポーツは自分で考え、分析をし、課題を考えて、競技をする。どうやったらうまくなっていくのか、その工夫をすることで成長することでスポーツは楽しくなる。

(2) 市民意識調査からみる本市のスポーツを取り巻く現況について

【委員】

スポーツの参加率をあげるには経験者、指導者、知っている人で協議しているが、知らないことをいくら争論して楽しさを伝えようとしてもなかなか伝わらない。

【委員】

スポーツにつなぐコミュニティをつくっていかないとダメだ。いくら情報を聞こうとしても情報が届かない。

【委員】

枠組みだけつくるのではなくてやっぱりハードな面だけじゃなくてハートの面でいかに変えていくかということが大切だと思う。

【委員】

現状をきちんとどう捉えるか。そして具体的に久留米市で何ができるかという優先順位をつけていくこと。する、みる、支えるための、プラットフォームを作っていくということがおそらく一番コミュニティを考えるのにいいと思う。

【委員】

体育の時間を充実したものにして小学校のうちに運動が好きになる、運好きになるように指導をしている。投げる力が今の子供は未熟。学校でドッジボールをする際も、ボールを柔らかいのにしたり怖くないようにしたり、工夫して運動に親しむようにしている。

地域の方との交流というので篠山小学校がしている取組みはいいと思う。子供たちは運動が「やってみたら楽しいな」と思えると思うので、小学校の時代からこういう運動を好きになる子を育てていきたいなと常々思っている。

来年がオリンピックイヤーなので、小中学生が本物に出会うという場面をどこの小学校もできるようなことをできたらいいなと思っている。

【委員】

スポーツは楽しいということが全ての原点。スポーツが楽しいと思えるかどうかはスポーツが本当に文化として根付いているかどうか。一生懸命やること、汗をかくことによって楽しいという言葉がわかる。そのために触れさせる環境をどう作るかがすごく大事。スポーツだけの問題ではない。テーマは大きいと思う。久留米の「する、見せる、ささえる」という形で子供たちに継承して行って、それが将来大人になってそこでの楽しい経験は生きてくる。そういう意味で環境が変わるように具体的な経験が生きるようにしていきたい。

【委員】

柔道でいえばイメージとして南筑高校、素根選手や古賀選手がいて、強豪校として全国で注目されている。その時に久留米市としては南筑で柔道を強化するために舵を切ったと認識を持っている。スポーツを通じた経済と地域の活性化という観点から行けば具体的に久留米商業を野球として再度甲子園に出られるような、強化選手の取り入れも含めた強化を行っていただきたい。

【委員】

野球のベースが久留米にはある。しかし最近は有力な選手が地方に分散して行って地域にしっかりとしてチームが出てこない。非常に心配している。柔道は南筑、野球は久留米商業。という風に持っていったらもっと久留米市の活性化につながるのでは。

【委員】

くるめ出身のトップ選手の頑張りには私たちに活力をくれる。けれどそのことを通して運動嫌いな子供やしない子供たちが運動をするようになるかという点と違う。久留米市民が健康増進して共生社会の実現や経済、地域の活性化などにつながるための具体的な中身を話し合う場だと思うので区別をして考えるべきだ。ここは久留米市民みんなが病気とか関わらずに心身ともに健康な生活を送れるためにはどうあるべきか？という話し合いをすべき場所だと思う。そこは明確に持っておかないとちょっと違うのではないかと思う。

【委員】

皆がスポーツを楽しめる環境をつくりましょうということが原点だと思う。その時に素根選手であったり古賀選手にどう協力してもらおうか、ということを考えると面白いかなと思う。

【委員】

中村議員の気持ちもわかっているが、その所管は教育委員会になるので我々議員としては違う形で教育委員会に働きかけていきたい。

【委員】

まったくスポーツに携わっていない幼稚園児、保育園児たちはグラウンドの中に入ったこ

とがない。親子で一緒にスポーツすることで馴染んでもらい楽しんでもらいたい。

【委員】

北野は、スポーツではなく子供からお年寄りまで接している。その時スポーツではなく健康増進を教えている。スポーツを教えているのではなく遊ばせている。

スポーツ推進委員審議会ということで「スポーツ」とついているからスポーツについて熱弁的に話されるかもしれないが、一番に考えるのは市民がいかに健康で過ごすかどうか。子供はスポーツではなく遊ぶこと楽しむことが一番だと。そしたらそういうアスリートになっていくだろうと思う。

(3) 次期計画の骨子について

【委員】

久留米市において、支える部分が薄すぎるというのはどうかと思う。

アンチドーピングについて、市がやらないというのはちょっとおかしいと思う。それを踏まえて案を作っていたらと思います。

【委員】

ドーピングコントロールは、教育という部分で必要だと思うが、自治体で環境を整備するというのはかなり難しい。ドーピングコントロールの事を行政に求めるのはちょっと厳しいと個人的に思う。

【委員】

アンチドーピングの資料だけでも作るのがいいと思う。

【委員】

日本スポーツ協会が用意している。情報を正しく伝えられるような形で、体協の所に HP があるのならばドーピングコントロールの情報提供を行ってもいいと思う。

【委員】

スポーツの持つ力をどう施策に反映していくのかを考えるべきだ。地域経済の活性化というのは柱としてあっていいが、本質的なスポーツの持つ力を情報発信まで含めて色んな人に伝わるというような施策を一つ考えていくべき。

初心者、競技スポーツ、アスリートや児童・生徒もいる中で、全部の項目で何か推進しよう、働きかけをするということに無理がある。区分を分けた上でそれを支える人材とか環境づくり、これもきちんと体系的にしたほうが本当にスポーツ運動の振興というさまざまなライフステージを踏まえたところでの施策になると思う。

【委員】

そのためにも現状把握をしっかりしていく。

次回日程

12月19日（木）

【事務局】

次回の議事については次期計画の仕上げと事業についてご意見を聞きたいと考えている。